

2016/3/25

柏の景気情報（平成28年2月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成28年2月分）

○ 調査期間 : 平成28年2月23日 ~ 平成28年3月9日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	76	48.7%
建設	44	22	50.0%
製造	33	16	48.5%
卸・小売	43	25	58.1%
サービス	36	13	36.1%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。
と調査表

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成28年2月の調査結果のポイント】

《業況DIはやや改善。先行きは依然として慎重な見方》

○2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.3(前月水準▲29.7)となり、マイナス幅が3.4ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△7.6(同±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲40.0(同▲53.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲50.0(同▲38.8)、建設業▲13.6(同▲12.5)である。

【建設業】からは、「消費税増税を来年に控え、少し動き始めた感がある」(一般土木建築工事業)、「工事高は停滞している。新電力については、先行き不明で静観模様」(電気工事業)、「メインの仕入先が廃業のため、色々な仕入先を増やしました。支払先が増えましたが、仕入単価が下がったものがありました」(内装工事業)、「新築物件が減少。増改築は増えているが、新築物件の減少は補えていない」(その他の職別工事業)、「オリンピックに向けての物件の話も出ているが、現業況では増員、賃金アップの余裕は無く、先行きの不安感が残る状況だ」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「円高の影響あり」(織物業)、「政府の補助を利用した設備投資の駆け込み需要がひと段落したせいか、受注が完全に鈍化した」(その他の機械・同部品製造業)、「国内外の経済混乱は、増長するばかりなので、目先の売上維持に拘り努力する状況である」(印刷業)、「引き合いはあるが、取引まで至らず」(一般産業用機械・装置製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「婦人服では、冬物不調により全ての歯車が狂ってしまった感が強い。コート類が全く売れなかったため、春物を入れられない。メーカー的にも厳しく、大手でもマスコミに出ている通り、閉店が相次いでいる」(婦人・子供服小売業)、「気温低下も衣料品は売上不振となったが、寒さもあり肌着などの実用衣料は好調であった。バレンタインは当日が日曜日となり、昨年の売上を下回り、昨年比93%に終る。中国の春節でのインバウンドはあまり効果がない。節分の恵方巻は昨年以上に売れた」(その他の各種商品小売業)、「うるう年に伴い、売上は微増だったものの、入館客数が苦戦している」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「中小・零細の私ども不動産業界は、景気が良いとは思えませんが、たまたま私のところは、昨年より今年の方が少しだけ良かったです。但し、駅から離れた柏市内の不動産の価格は本当に安く、私ども古くからやっている業者は驚いています」(不動産代理業・仲介業)、「来客数は変わらず。購入までの時間が長引いており、尚かつ価格の値下げ要求が強い。不動産価格はわずかですが値上げ基調です」(不動産管理業)、「賃貸需要の繁忙期は良好に推移。本年も銀行借入償還の予定が一部あるので、既存物件の修繕等に再投資していく予定です」(不動産賃貸・管理業)、「昨年末、駆け込み受注案件で多忙。新年度(4月以降)の受注見込みは例年と変化なしだが、飛躍するためにも優秀な人材が不足」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

◎原油安

各業種より、「原油価格が下がり、材料費を下げるよう要求されている。現実、原材料価格は上げ止まりの状態、仕入価格の変動は無いが、ゼネコンは施工単価の下げを要求してくる」(その他の職別工事業)、「原油が下がっているにも関わらず、インク等の材料費が下がらない」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

◎天候不順

各業種より、「前半は、物産展の動員効果やバレンタイン商戦が好調に推移。中盤は、気温の低下影響により、春物衣料の動きは鈍く、婦人・紳士衣料は単価の低下で売上伸びず」(百貨店)、「野菜では端境期を迎えて高値取引の商材もあります。果物は前年の天候が影響して、生産量が少ないことから、食味は良好ですが、高値が続いています」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「仕入原価は今後も上がるし、沼南地区に出来るSCの求人引に張られてか人も集まり辛くなってきてる。他店と違う付加価値をどう付けていくかがこれからの小売業の課題である」(各種食料品小売業)、「人手不足が解消しません。少し設備投資をしようと思います」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
9月	▲20.2	▲21.7	▲5.5	▲35.7	▲6.6
10月	▲26.2	▲13.6	▲33.3	▲44.0	▲6.6
11月	▲30.8	▲21.7	▲27.7	▲52.0	▲13.3
12月	▲28.7	▲12.5	▲41.1	▲44.0	▲14.2
1月	▲29.7	▲12.5	▲38.8	▲53.5	±0.0
2月	▲26.3	▲13.6	▲50.0	▲40.0	△7.6
見通し	▲15.7	±0.0	▲25.0	▲40.0	△15.3

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成28年2月の業況についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.3(前月水準▲29.7)となり、マイナス幅が3.4ポイント縮小した。

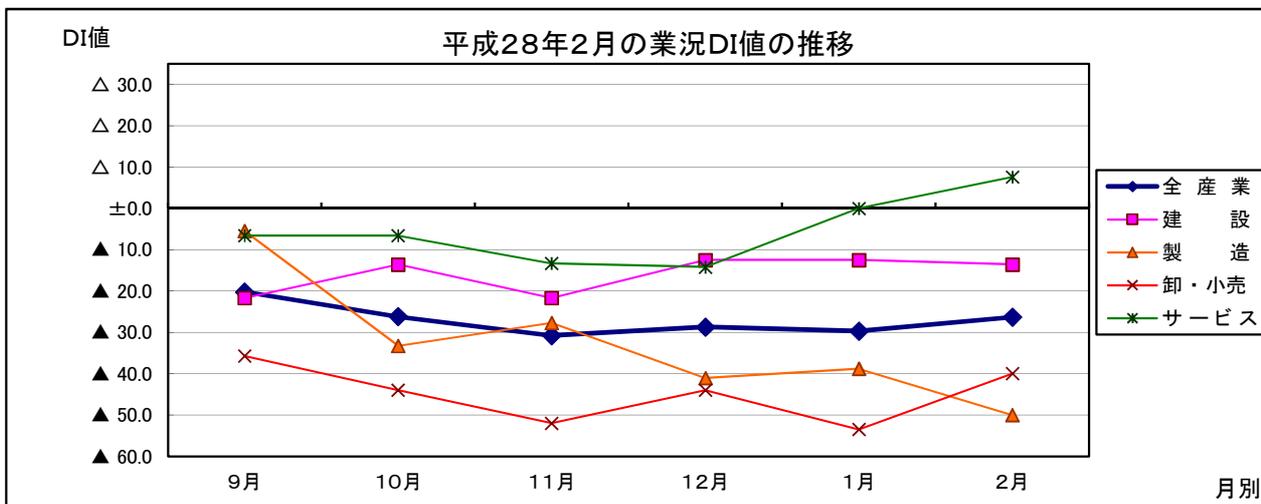
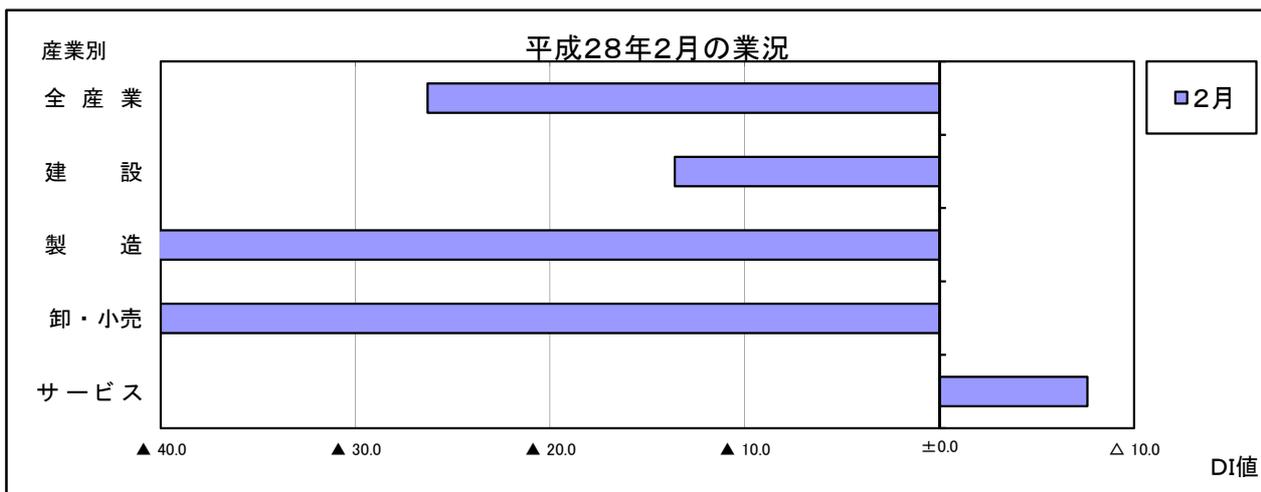
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△7.6(同±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲40.0(同▲53.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲50.0(同▲38.8)、建設業▲13.6(同▲12.5)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.7(前月水準▲14.2)となり、マイナス幅が1.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△15.3(同▲14.2)であり、29.5ポイントと大幅に改善する見通しである。変わらない見通しの業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲25.0(同▲11.1)、卸小売業▲40.0(同▲28.5)である。

平成28年2月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 9月	10月	11月	12月	平成28年 1月	2月	先行き見通し 3月～5月(2月～4月)
全産業	▲20.2	▲26.2	▲30.8	▲28.7	▲29.7	▲26.3	▲15.7(▲14.2)
建設	▲21.7	▲13.6	▲21.7	▲12.5	▲12.5	▲13.6	±0.0(±0.0)
製造	▲5.5	▲33.3	▲27.7	▲41.1	▲38.8	▲50.0	▲25.0(▲11.1)
卸・小売	▲35.7	▲44.0	▲52.0	▲44.0	▲53.5	▲40.0	▲40.0(▲28.5)
サービス	▲6.6	▲6.6	▲13.3	▲14.2	±0.0	△7.6	△15.3(▲14.2)



【平成28年2月の売上についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.4(同▲29.7)であり、マイナス幅が15.3ポイント縮小した。

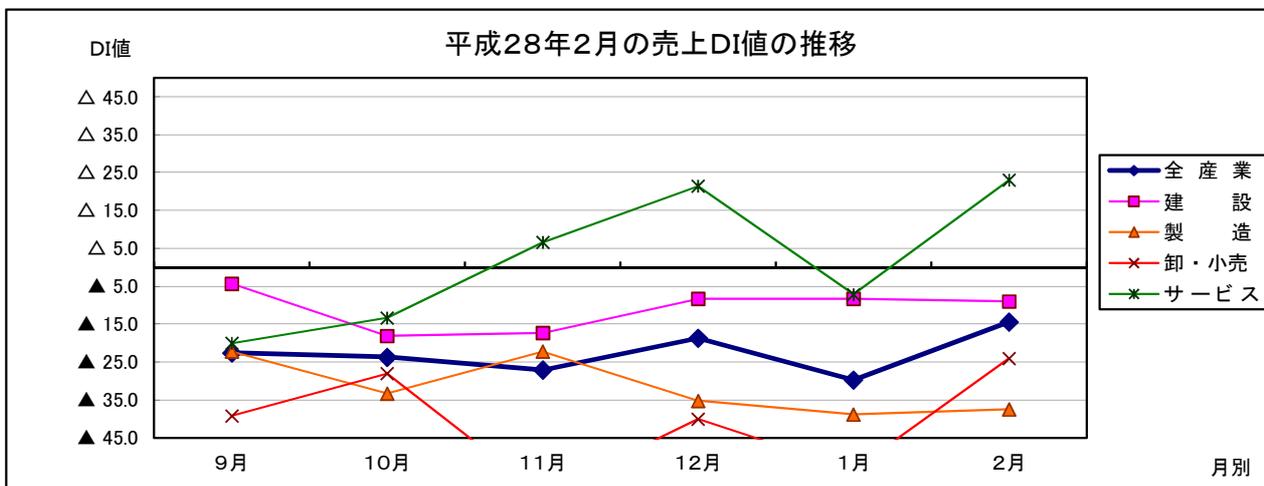
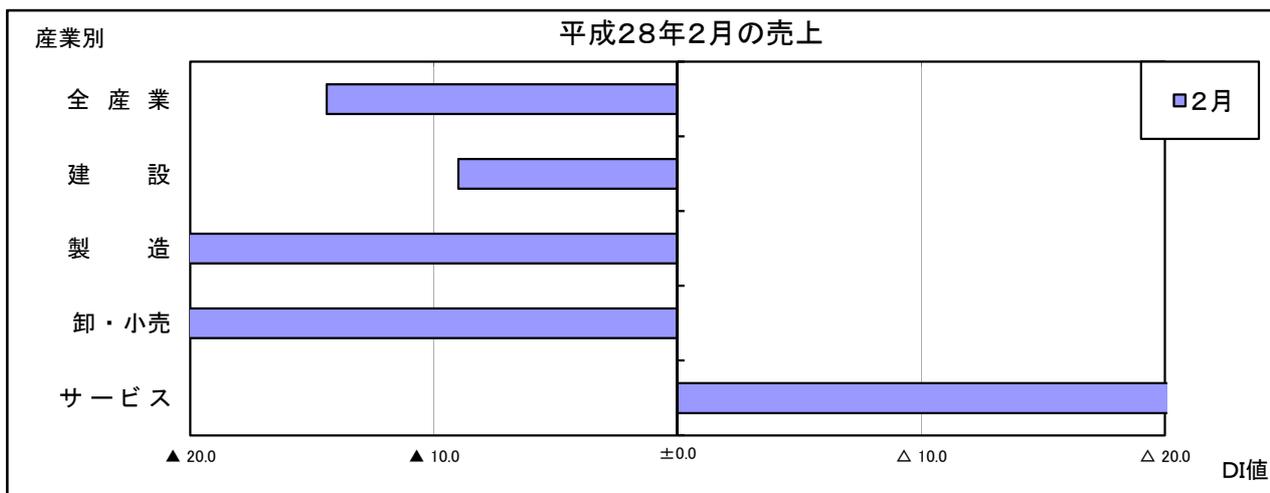
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△23.0(同▲7.1)であり、30.1ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲24.0(同▲53.5)、製造業▲37.5(同▲38.8)であり、特に、卸小売業では、29.5ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲9.0(同▲8.3)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.4(前月水準▲9.5)となり、マイナス幅が4.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△30.7(同▲7.1)であり、37.8ポイントと大幅に改善する見通しである。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲25.0(同±0.0)であり、25.0ポイントと大幅に悪化する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲36.0(同▲21.4)、建設業▲9.0(同▲4.1)である。

平成28年2月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 9月	10月	11月	12月	平成28年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲22.6	▲23.7	▲27.1	▲18.7	▲29.7	▲14.4	▲14.4(▲9.5)
建設	▲4.3	▲18.1	▲17.3	▲8.3	▲8.3	▲9.0	▲9.0(▲4.1)
製造	▲22.2	▲33.3	▲22.2	▲35.2	▲38.8	▲37.5	▲25.0(±0.0)
卸・小売	▲39.2	▲28.0	▲60.0	▲40.0	▲53.5	▲24.0	▲36.0(▲21.4)
サービス	▲20.0	▲13.3	△6.6	△21.4	▲7.1	△23.0	△30.7(▲7.1)



【平成28年2月の採算についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.0(前月水準▲33.3)となり、マイナス幅が12.3ポイント縮小した。

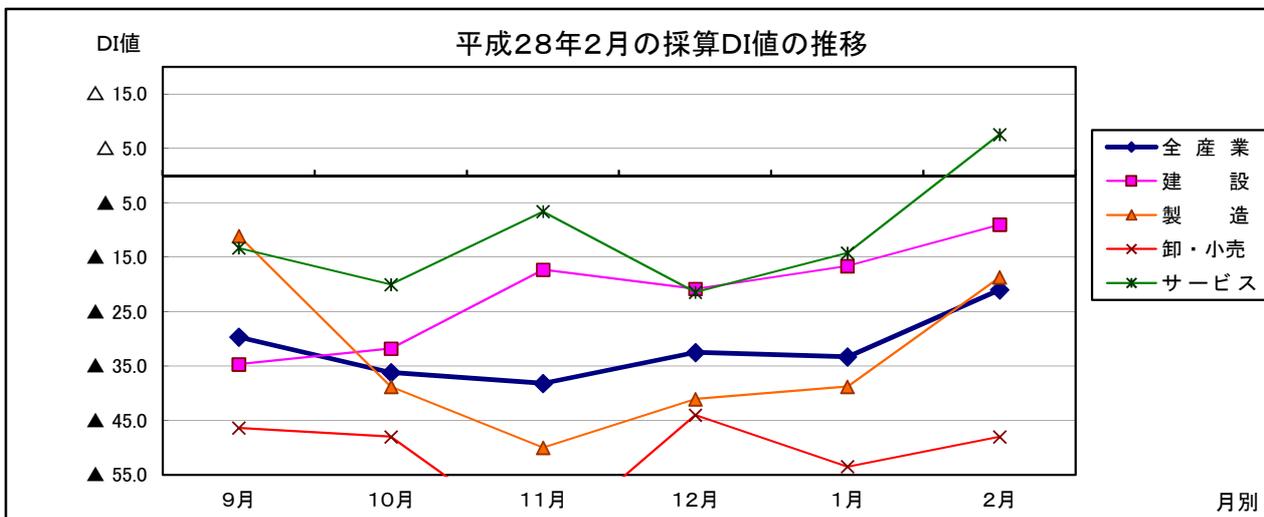
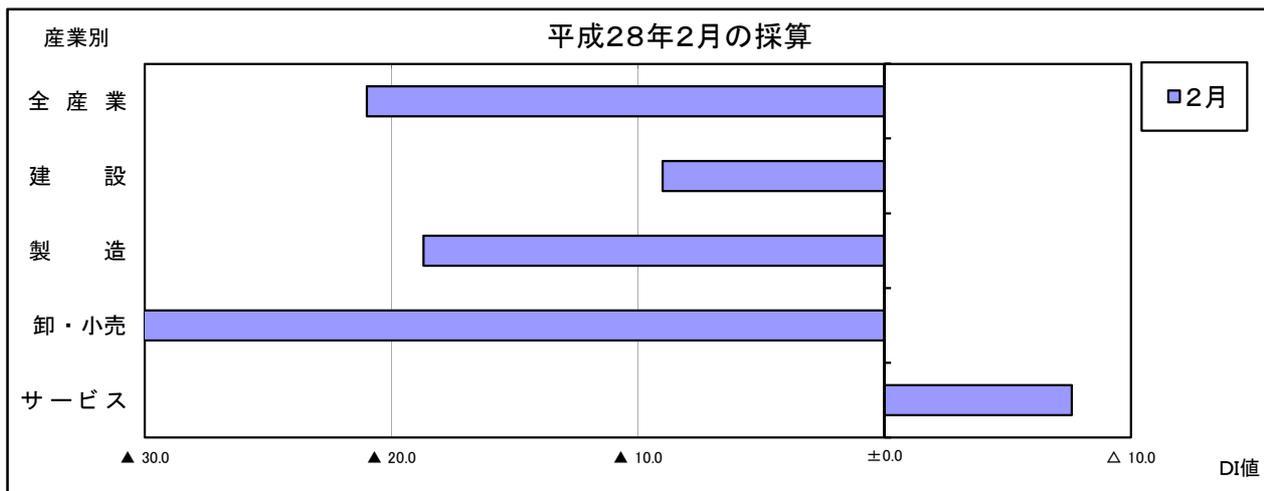
業種別では、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△7.6(同▲14.2)であり、21.8ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲18.7(同▲38.8)、建設業▲9.0(同▲16.6)、卸小売業▲48.0(同▲53.5)であり、特に製造業では、20.1ポイントと大幅に改善した。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.7(前月水準▲20.2)であり、マイナス幅が0.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△30.7(同▲21.4)であり、52.1ポイントと大幅に改善する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲44.0(同▲32.1)、建設業▲18.1(同▲8.3)、製造業▲25.0(同▲16.6)である。

平成28年2月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 9月	10月	11月	12月	平成28年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲29.7	▲36.2	▲38.2	▲32.5	▲33.3	▲21.0	▲19.7(▲20.2)
建設	▲34.7	▲31.8	▲17.3	▲20.8	▲16.6	▲9.0	▲18.1(▲8.3)
製造	▲11.1	▲38.8	▲50.0	▲41.1	▲38.8	▲18.7	▲25.0(▲16.6)
卸・小売	▲46.4	▲48.0	▲68.0	▲44.0	▲53.5	▲48.0	▲44.0(▲32.1)
サービス	▲13.3	▲20.0	▲6.6	▲21.4	▲14.2	△7.6	△30.7(▲21.4)



【平成28年2月の仕入単価についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.4(前月水準▲17.8)となり、マイナス幅が0.6ポイント拡大した。

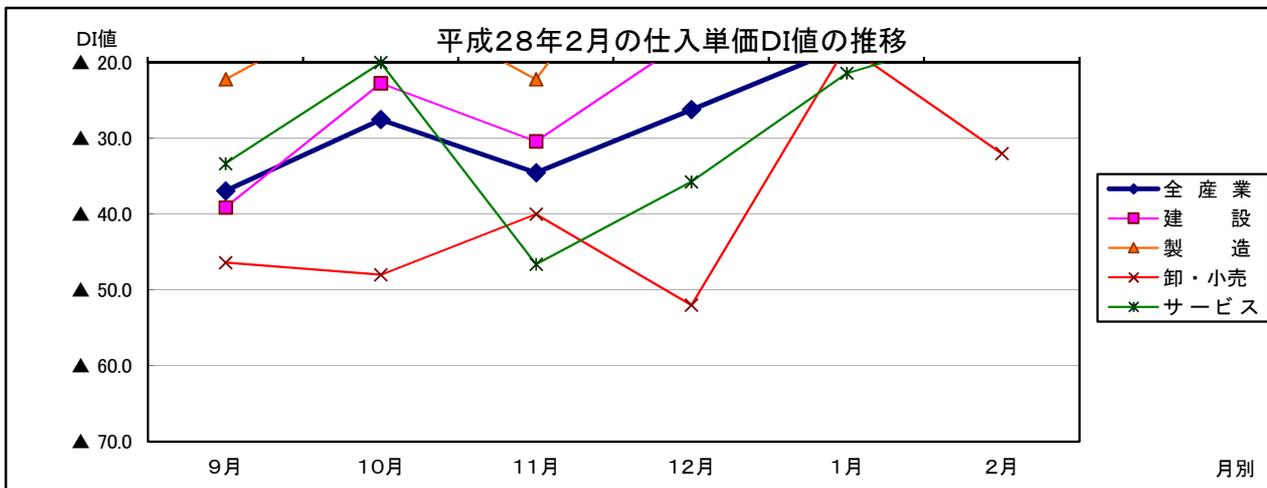
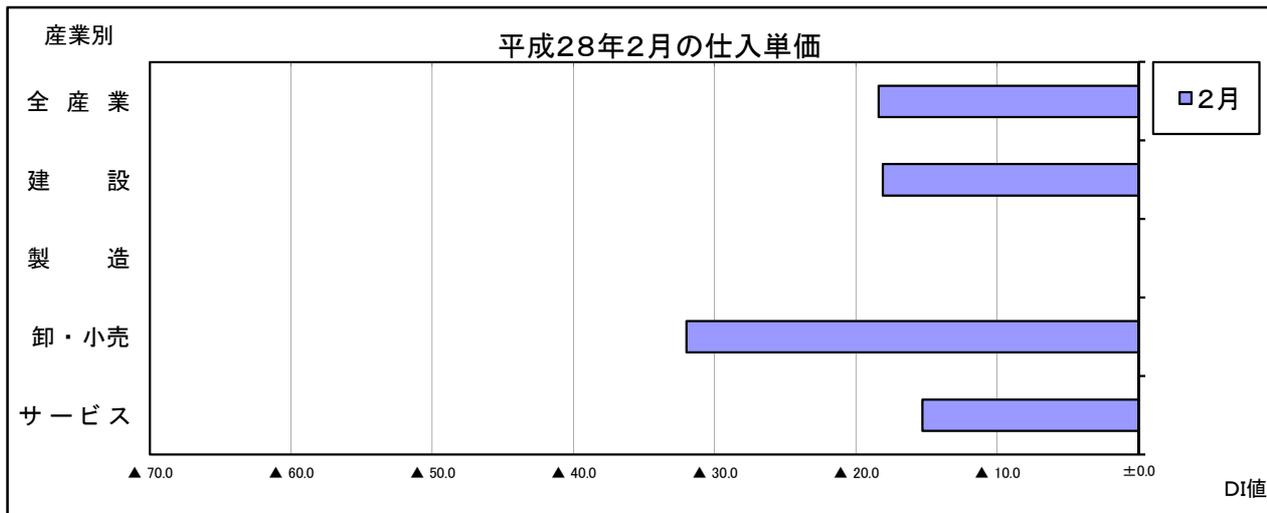
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業±0.0(同▲16.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲15.3(同▲21.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲32.0(同▲17.8)、建設業▲18.1(同▲16.6)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.1(前月水準▲19.0)となり、マイナス幅が1.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲15.3(同▲28.5)、卸小売業▲32.0(同▲32.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲12.5(同▲11.1)、建設業▲4.5(同▲4.1)である。

平成28年2月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 9月	10月	11月	12月	平成28年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲36.9	▲27.5	▲34.5	▲26.2	▲17.8	▲18.4	▲17.1(▲19.0)
建設	▲39.1	▲22.7	▲30.4	▲16.6	▲16.6	▲18.1	▲4.5(▲4.1)
製造	▲22.2	▲11.1	▲22.2	△5.8	▲16.6	±0.0	▲12.5(▲11.1)
卸・小売	▲46.4	▲48.0	▲40.0	▲52.0	▲17.8	▲32.0	▲32.0(▲32.1)
サービス	▲33.3	▲20.0	▲46.6	▲35.7	▲21.4	▲15.3	▲15.3(▲28.5)



【平成28年2月の従業員についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△15.7(前月水準△9.5)となり、プラス幅が6.2ポイント拡大した。

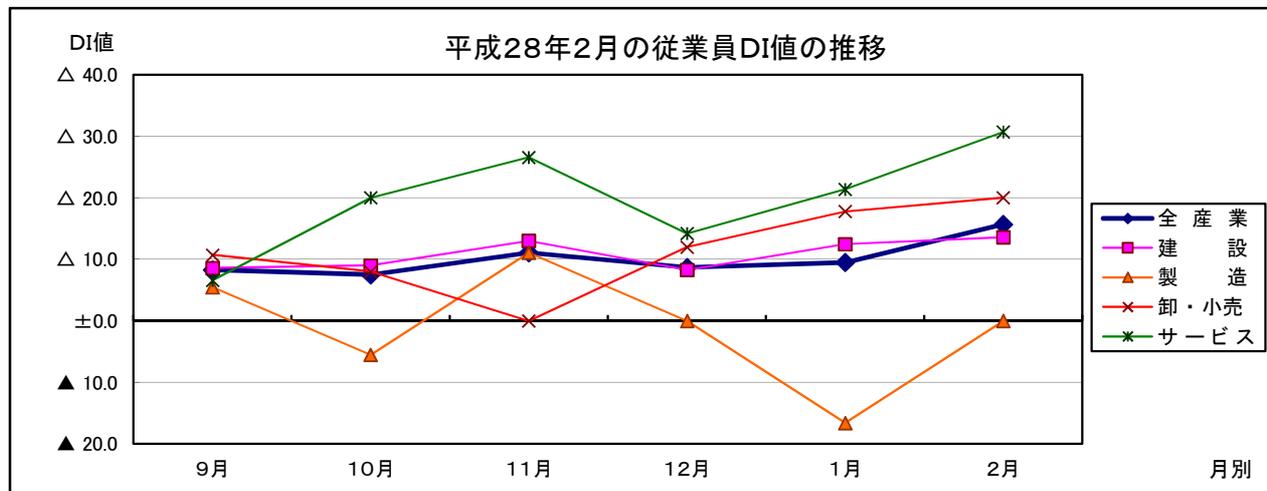
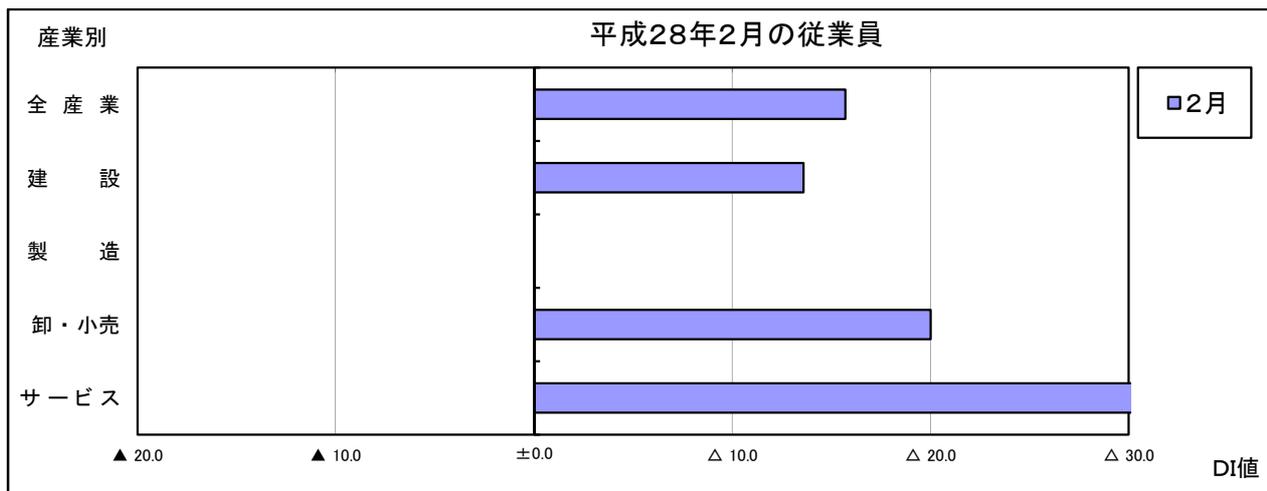
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業△30.7(同△21.4)、卸小売業△20.0(同△17.8)、建設業△13.6(同△12.5)である。マイナスからプラスに転じた業種は、製造業±0.0(同▲16.6)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、△17.1(前月水準△21.4)であり、プラス幅が4.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△38.4(同△21.4)、製造業△6.2(同△5.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△9.0(同△25.0)、卸小売業△20.0(同△28.5)である。

平成28年2月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 9月	10月	11月	12月	平成28年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	△8.3	△7.5	△11.1	△8.7	△9.5	△15.7	△17.1(△21.4)
建設	△8.6	△9.0	△13.0	△8.3	△12.5	△13.6	△9.0(△25.0)
製造	△5.5	▲5.5	△11.1	±0.0	▲16.6	±0.0	△6.2(△5.5)
卸・小売	△10.7	△8.0	±0.0	△12.0	△17.8	△20.0	△20.0(△28.5)
サービス	△6.6	△20.0	△26.6	△14.2	△21.4	△30.7	△38.4(△21.4)



【平成28年2月の資金繰りについての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.8(前月水準▲14.2)となり、マイナス幅が2.4ポイント縮小した。

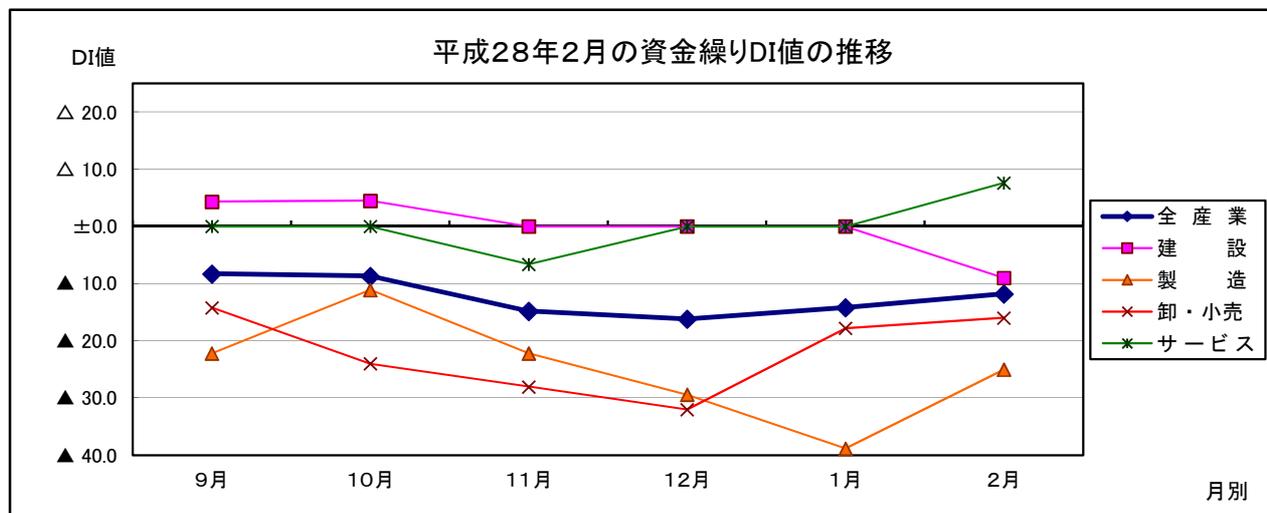
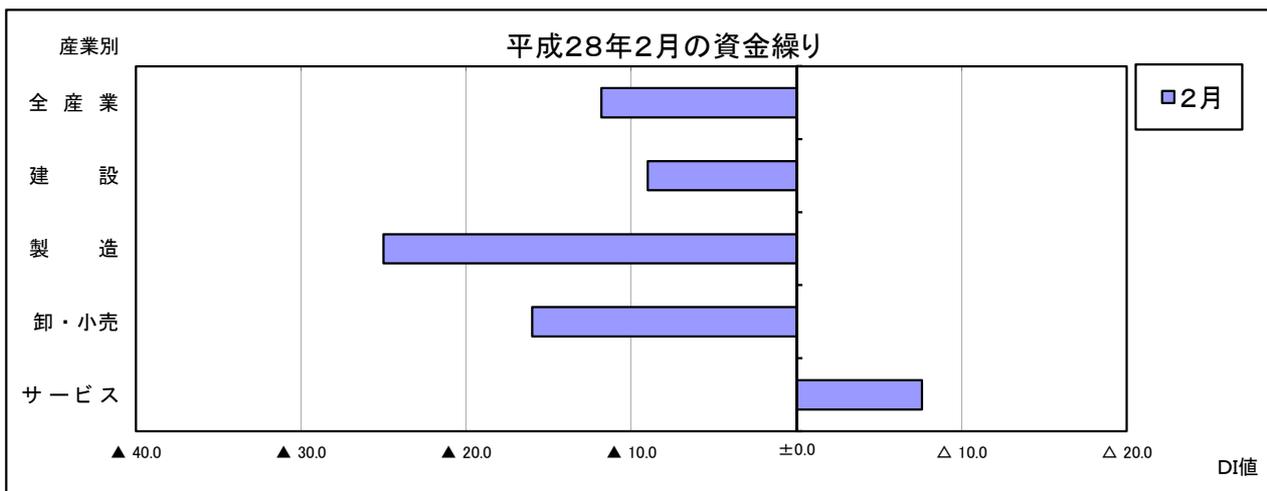
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△7.6(同±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲25.0(同▲38.8)、卸小売業▲16.0(同▲17.8)である。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲9.0(同±0.0)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲1.3(前月水準▲2.3)となり、マイナス幅が1.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△30.7(同△7.1)、建設業△9.0(同△4.1)であり、特にサービス業では、23.6ポイントと大幅に拡大する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲25.0(同▲11.1)、卸小売業▲12.0(同▲7.1)である。

平成28年2月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成27年 9月	10月	11月	12月	平成28年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲8.3	▲8.7	▲14.8	▲16.2	▲14.2	▲11.8	▲1.3(▲2.3)
建設	△4.3	△4.5	±0.0	±0.0	±0.0	▲9.0	△9.0(△4.1)
製造	▲22.2	▲11.1	▲22.2	▲29.4	▲38.8	▲25.0	▲25.0(▲11.1)
卸・小売	▲14.2	▲24.0	▲28.0	▲32.0	▲17.8	▲16.0	▲12.0(▲7.1)
サービス	±0.0	±0.0	▲6.6	±0.0	±0.0	△7.6	△30.7(△7.1)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 14.4	▲ 14.4	▲ 21.0	▲ 19.7	▲ 18.4	▲ 17.1	△ 15.7	△ 17.1
建設	▲ 9.0	▲ 9.0	▲ 9.0	▲ 18.1	▲ 18.1	▲ 4.5	△ 13.6	△ 9.0
製造	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 18.7	▲ 25.0	±0.0	▲ 12.5	±0.0	△ 6.2
卸・小売	▲ 24.0	▲ 36.0	▲ 48.0	▲ 44.0	▲ 32.0	▲ 32.0	△ 20.0	△ 20.0
サービス	△ 23.0	△ 30.7	△ 7.6	△ 30.7	▲ 15.3	▲ 15.3	△ 30.7	△ 38.4

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 26.3	▲ 15.7	▲ 11.8	▲ 1.3
建設	▲ 13.6	±0.0	▲ 9.0	△ 9.0
製造	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 25.0
卸・小売	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 16.0	▲ 12.0
サービス	△ 7.6	△ 15.3	△ 7.6	△ 30.7

【平成28年2月業種別業界内トピックス】

業種別	概 況	キーワード	業種
建設	消費税増税を来年に控え、少し動き始めた感がある。	消費税増税	一般土木建築工事業
	工事高は停滞している。新電力については、先行き不明で静観模様。	受注停滞 新電力	電気工事業
	原材料が上げ止まりとなり落ち着いたが、施工単価が下げている。原油価格が下がり、材料費を下げるよう要求されている。現実、原材料価格は上げ止まりの状態、仕入価格の変動は無いが、ゼネコンは施工単価の下げを要求してくる。また、社会保険未加入対策に係るためか、全体的な工事価格の調整を強いられている。また、オリンピックに向けての物件の話も出ているが、現業況では増員、賃金アップの余裕は無く、先行の不安感が残る状況だ。	仕入単価上昇(上げ止まり) 施工単価下落 原油価格下落 値下げ要求 オリンピック 人手不足 先行き不安	その他の職別工事業
	メインの仕入先が廃業のため、色々な仕入先を増やしました。支払先が増えましたが、仕入単価が下がったものもありました。	仕入先変更 仕入単価下落	内装工事業
	新築物件が減少。増改築は増えているが、新築物件の減少は補えていない。	新築物件減少 増改築増加	その他の職別工事業
製造業	円高の影響あり。	円高の影響	織物業
	原油が下がっているにも関わらず、インク等の材料費が下がらない。まだまだ大きな設備投資には引き気味である	原油安 仕入単価上昇(上げ止まり) 設備投資	印刷業
	政府の補助を利用した設備投資の駆け込み需要がひと段落したせいか、受注が完全に鈍化した。	設備投資 受注鈍化	その他の機械・同部品製造業
	国内外の経済混乱は、増長するばかりなので、目先の売上維持に拘り努力する状況である。	国内外の経済混乱 売上維持	印刷業
	引き合いはあるが、取引まで至らず。		一般産業用機械・装置製造業
	前半は、物産展の動員効果やバレンタイン商戦が好調に推移。中盤は、気温の低下影響により、春物衣料の動きは鈍く、婦人・紳士衣料は単価の低下で売上伸びず。季節人形は、1月は好調も2月は大きく前年を下回る。高級雑貨は、前年大幅に伸長の宝飾・美術などの高額品が不調。全体としては、食品が好調であったこと、営業日数+1などの効果もあり、前年をクリアした。	物産展好調 バレンタイン商戦好調 春物衣料不調 季節人形不調 高額品不調 食品好調 天候不順	百貨店
	婦人服では、冬物不調により全ての歯車が狂ってしまった感が強い。コート類が全く売れなかったため、春物を入れられない。メーカー的にも厳しく、大手でもマスコミに出ている通り、閉店が相次いでいる。	冬物衣料不調 大手の相次ぐ閉店 天候不順	婦人・子供服小売業

【平成28年2月業種別業界内トピックス】

卸小売	<p>気温低下も衣料品は売上不振となったが、寒さもあり肌着などの実用衣料は好調であった。バレンタインは当日が日曜日となり、昨年の売上を下回り、昨年比93%に終る。中国の春節でのインバウンドはあまり効果がない。節分の恵方巻は昨年以上に売れた。</p>	<p>衣料品不調 実用衣料好調 バレンタイン商品不調 インバウンド 恵方巻好調</p>	<p>その他の各種商品小売業</p>
	<p>うるう年に伴い、売上は微増だったものの、入館客数が苦戦している。</p>	<p>売上微増 入館客減</p>	<p>その他の各種商品小売業</p>
	<p>仕入原価は今後も上がるし、沼南地区に出来るSCの求人に関引張られてか人も集まり辛くなってきてる。他店と違う付加価値をどう付けていこうかがこれからの小売業の課題である。</p>	<p>仕入単価上昇 人手不足(求人難)</p>	<p>各種食料品小売業</p>
	<p>人手不足が解消しません。少し設備投資をしようと思います。</p>	<p>人手不足</p>	<p>菓子・パン小売業</p>
	<p>いよいよ春の青果物の動きが活発になる時期です。鍋物も間もなく終わりに近づいていますが、依然として寒冷が続き、消費動向も平年同様の取引となっています。また、野菜では端境期を迎えて高値取引の商材もあります。果物は前年の天候が影響して、生産量が少ないことから、食味は良好ですが、高値が続いています。これからは、桃の節句やお花見シーズンを迎えますので、安定供給に努めていきます。</p>	<p>野菜高値取引(端境期) 果物高値取引(天候不順)</p>	<p>食料・飲料卸売業</p>
サービス業	<p>中小・零細の私ども不動産業界は、景気が良いとは思えませんが、たまたま私のところは、昨年より今年の方が少しだけ良かったです。但し、駅から離れた柏市内の不動産の価格は本当に安く、私ども古くからやっている業者は驚いています。</p>	<p>業況やや好転 不動産価格(遠隔地)下落</p>	<p>不動産代理業・仲介業</p>
	<p>来客数は変わらず。購入までの時間が長引いており、尚かつ価格の値下げ要求が強い。不動産価格はわずかですが値上げ基調です。</p>	<p>来客数不変 慎重な購買 値下げ要求</p>	<p>不動産管理業</p>
	<p>賃貸需要の繁忙期は良好に推移。本年も銀行借入償還の予定が一部あるので、既存物件の修繕等に再投資していく予定です。</p>	<p>業況好調(繁忙期) 再投資</p>	<p>不動産賃貸・管理業</p>
	<p>昨年末、駆け込み受注案件で多忙。新年度(4月以降)の受注見込みは例年と変化なしだが、飛躍するためにも優秀な人材が不足。</p>	<p>駆け込み受注(年末の) 見通し不変 人手不足</p>	<p>ソフトウェア業</p>

◎原油安

原油価格が下がり、材料費を下げるよう要求されている。現実、原材料価格は上げ止まりの状態、仕入価格の変動は無いが、ゼネコンは施工単価の下げを要求してくる。

その他の職別工事業

原油が下がっているにも関わらず、インク等の材料費が下がらない。

印刷業

◎天候不順

前半は、物産展の動員効果やバレンタイン商戦が好調に推移。中盤は、気温の低下影響により、春物衣料の動きは鈍く、婦人・紳士衣料は単価の低下で売上伸びず。

百貨店

野菜では端境期を迎えて高値取引の商材もあります。果物は前年の天候が影響して、生産量が少ないことから、食味は良好ですが、高値が続いています。

食料・飲料卸売業

◎人手不足

仕入原価は今後も上がるし、沼南地区に出来るSCの求人につ張られてか人も集まり辛くなってきてる。他店と違う付加価値をどう付けていくかがこれからの小売業の課題である。

各種食料品小売業

人手不足が解消しません。少し設備投資をしようと思います。

菓子・パン小売業

平成28年2月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲26.3に対し、「CCI-LOBO」が▲22.8で柏の方がマイナス幅が3.5ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業では10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲14.4に対し、「CCI-LOBO」が▲19.3で柏の方がマイナス幅が4.9ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業であり、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲21.0に対し、「CCI-LOBO」が▲22.3で柏の方がマイナス幅が1.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、特に建設業、サービス業では、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲18.4に対し、「CCI-LOBO」が▲24.9で柏の方がマイナス幅が6.5ポイント小さい。業種別では、全ての業種で「柏の景気」の方が良く、特に、製造業では、10ポイント以上良い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△15.7に対し、「CCI-LOBO」が△13.8で柏の方がプラス幅が1.9ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業である。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲11.8に対し、「CCI-LOBO」が▲12.8で柏の方がマイナス幅が1.0ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業であり、製造業では10ポイント以上悪い。

平成28年2月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 26.3	 ▲ 13.6	 ▲ 50.0	 ▲ 40.0	 △ 7.6
CCI-LOBO	 ▲ 22.8	 ▲ 18.2	 ▲ 23.8	 ▲ 34.0	 ▲ 15.5

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 14.4	 ▲ 9.0	 ▲ 37.5	 ▲ 24.0	 △ 23.0
CCI-LOBO	 ▲ 19.3	 ▲ 23.2	 ▲ 19.8	 ▲ 24.1	 ▲ 14.2

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 21.0	 ▲ 9.0	 ▲ 18.7	 ▲ 48.0	 △ 7.6
CCI-LOBO	 ▲ 22.3	 ▲ 19.1	 ▲ 25.2	 ▲ 30.0	 ▲ 17.3

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 18.4	 ▲ 18.1	 ±0.0	 ▲ 32.0	 ▲ 15.3
CCI-LOBO	 ▲ 24.9	 ▲ 23.3	 ▲ 18.2	 ▲ 34.9	 ▲ 24.2

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 △ 15.7	 △ 13.6	 ±0.0	 △ 20.0	 △ 30.7
CCI-LOBO	 △ 13.8	 △ 15.4	 △ 5.2	 △ 20.8	 △ 18.7

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 11.8	 ▲ 9.0	 ▲ 25.0	 ▲ 16.0	 △ 7.6
CCI-LOBO	 ▲ 12.8	 ▲ 7.7	 ▲ 12.5	 ▲ 22.2	 ▲ 10.9

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (2月速報)

調査期間：平成28年2月15日～19日

調査対象：全国の422商工会議所が2959企業
にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、悪化。先行きは改善見込みも、不透明感強く、慎重な見方が続く

2月の全産業合計の業況DIは、▲22.8と、前月から▲3.4ポイントの悪化。観光需要による牽引のほか、原油安に伴い、原材料価格や燃料費、電力料金下落の恩恵を指摘する声も聞かれたものの、人手不足と人件費の上昇が足かせとなる中、消費低迷や中国経済減速による受注減などが全体を押し下げた。また、株価・為替の不安定な推移も中小企業のマインドを下押ししており、昨秋頃から足踏み状況が続いていたが、足元では弱い動きがみられている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲18.2（今月比+4.6ポイント）と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因。観光需要の拡大や設備投資の持ち直し、補正予算の早期執行への期待感のほか、燃料費や電力料金の下落により収益改善を見込む声も聞かれる。他方で、新興国経済の減速や株価・為替の不安定な推移、マイナス金利導入の影響などにより、先行きの不透

明感が増す中、中小企業においては、消費低迷の長期化や人手不足の影響拡大などへの懸念を払拭できず、慎重な見方を崩していない。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「人件費の上昇が続くものの、受注確保のためには施工単価を据え置かざるを得ない」（一般工事業）、「燃料費や資材価格下落の恩恵はあるが、公共工事・民間工事ともに動きが乏しく、売上は伸び悩んでいる」（土木工事業）、「年度末にかけて受注が増加し、業績も上向いている。他方で、短期の案件が多く、人手が足りていない」（建築士事業）

【製造業】「消費の二極化に対応するため、低価格帯と高価格帯双方の商品をバランスよく投入したことで、売上は堅調に推移している」（衣料品製造業）、「新興国向けの受注低迷が続く。また、為替相場が不安定であり、今後の業績への影響が心配」（産業用機械製造業）、「取引先である自動車メーカーの工場稼働停止に伴い、自社の受注も減少した」（自動車部品

製造業

【卸売業】「収益確保のため、コスト増加分を価格転嫁したところ、一部の取引先がより安価な同業他社に流れ、売上は伸び悩んだ」（建築資材卸売業）、「利幅の大きいプライベートブランド商品の営業を強化したことが奏功し、採算が好転している」（食料品卸売業）、「製造業からの引き合いが鈍く、在庫が積み上がっている」（衛生管理用品卸売業）

【小売業】「バレンタイン商戦が好調。特に、海外有名ブランドや限定品など、高付加価値商品に人気が集まった」（百貨店）、「必要なものしか買わない消費者が一段と増えており、値下げをしても売れ残る商品が多くみられる」（総合スーパー）、「春節に伴い、中国などからの外国人観光客は増えているが、買い物よりも温泉や城郭など観光の人气が高く、売上面での恩恵は少ない」（商店街）

【サービス業】「青果物や冷凍食品の荷動きは活発なもの、鋼材やアルミなど製造業向けの受注が低調」（運送

業）、「電力料金は昨年度比で約8割と抑制できているが、生鮮を含む食料品の仕入コスト増大の影響が大きく、収益確保が難しい」（飲食店）、「人材確保のため、時給を引き上げて採用募集をしているが、応募が少ない。また、採用できても収益の圧迫要因となっており、業況は厳しい」（人材派遣業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
9月	▲17.3	▲17.3	▲16.1	▲24.0	▲24.8	▲8.7
10月	▲17.5	▲17.1	▲17.4	▲21.8	▲23.1	▲10.7
11月	▲18.1	▲20.4	▲17.6	▲17.4	▲26.3	▲10.0
12月	▲17.2	▲15.4	▲15.5	▲17.2	▲30.8	▲7.7
1月	▲19.4	▲17.4	▲16.4	▲18.2	▲31.3	▲13.6
2月	▲22.8	▲18.2	▲23.8	▲19.7	▲34.0	▲15.5
見通し	▲18.2	▲16.1	▲13.7	▲16.0	▲32.2	▲12.3